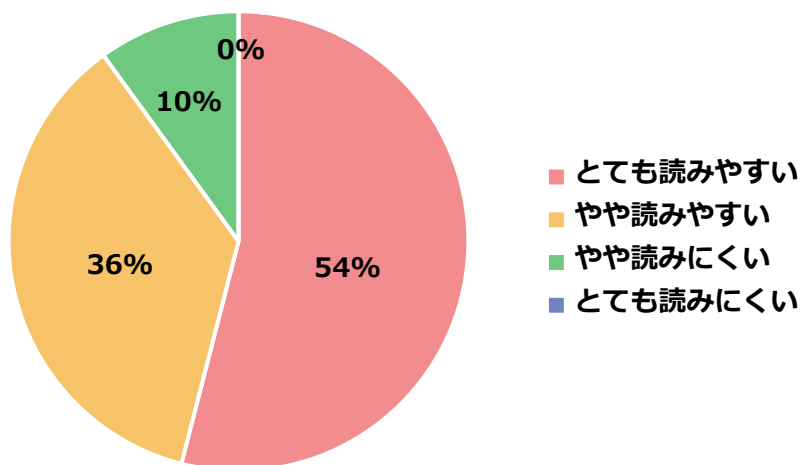


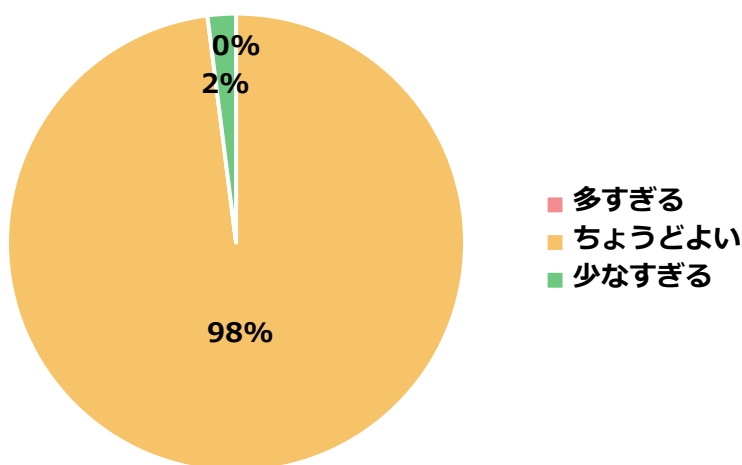
2022年8月号の読者アンケートに多数のご参加をいただきまして、ありがとうございました。アンケートの結果をご紹介します。

Primaria ONLINE 編集部

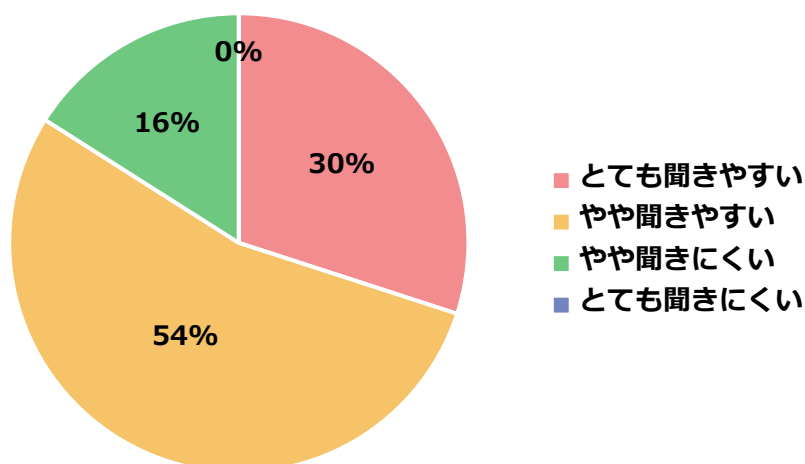
■オンライン・マガジンは読みやすいですか？（ひとつを選択）



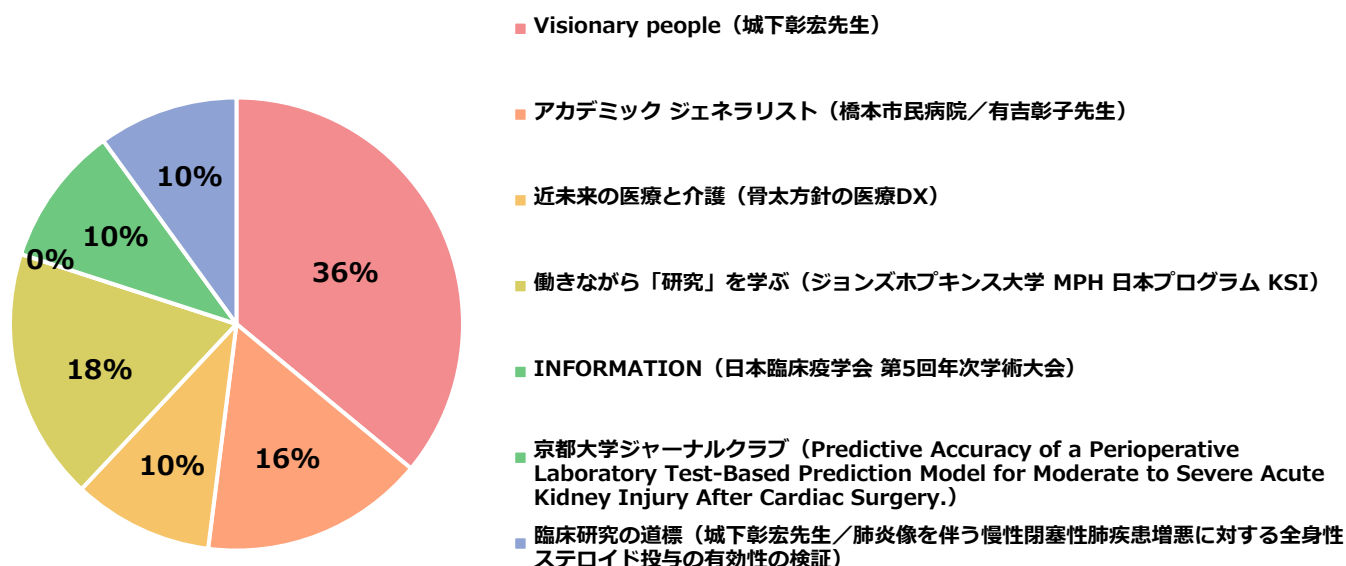
■各記事の量は適切ですか？（ひとつを選択）



■音で聴く記事は聞きやすいですか？（ひとつを選択）



■2022年8月号で最も良かったと思う記事は？（ひとつを選択）



■2022年8月号で最も良かったと思う記事（前の設問で選択）の理由は？（自由記載）*抜粋

Visionary people（城下彰宏先生）	それぞれの先生方の医療への思いがわかる。
	詳細なバックグラウンドとこれからが記載されているため。
	すばらしい生き方がよくわかるので。
	日常では出会う機会のない方の生の声は貴重で、同世代の活躍は刺激になり、ヒントになります。書き言葉と話し言葉は異なるので、インタビュー形式の音で聴けることがとても良いです。
	若手研究者の先生のご活躍を知ることが出来た。
	城下先生のこれまでのターニングポイントが伺え感銘しました。
	今後を担う若手および中堅に焦点を当てた内容に感銘を受けたため。
	同世代の先生の素晴らしいご活躍に刺激を受けて、頑張りたいと思いました！特別な才能があるかないか、ではなく、踏み出す勇気があるかないか、という激励のメッセージに感銘を受けました。
	世界が広がる。
	城下先生の経歴は非常に特異ですが、だからこそそのような考え方をもってその道に進まれたのか知ることが非常に勉強になりました。
	このアンケートで初めて対談を聞けるとわかってしかも興味深い内容だったので。
	人生はどこで変わっていくかわからない。まさにその通りであります。ある恩人のお言葉に、自分の人生の扉は他人が開く。人との出会いが人生の全てであると思います。出会いによって人は変わって行くのであると思っております。若人の挑戦は素晴らしいものであり、応援する事が私の役割だと思っております。
	多くの若い先生にこういう道があるということを提示できるので多様なキャリアを知ることができる。
	やはり、各人の履歴とエピソードがわかること。
	リスペクトできる。
ビジョンを持った若手臨床医の存在を紹介していただいたこと。日本の将来を期待させてくれる。	
若くしてきちんとビジョンを持って世界に出ていっている医師ののんびりを見ることができた。	
素晴らしい！の一言。城下先生という若きエース自身も素晴らしいですが、編集長のあからさまでない心からの応援姿勢がなんともいえないです。苦勞して（かどうかわかりませんが）前を歩いた人のあるべき姿と思います。	
アカデミック ジェネラリスト（橋本市民病院／有吉彰子先生）	勉強になった。考えさせられた。
	自分も何か臨床研究ができないか模索しているから。
	刺激をいつも頂いております。
	キャリア選択を知れたので。
	新しい概念である。
	おもしろかったです。
	「どこにいても世界へ飛び出せる！」が印象に残り、日本に居ながらジョンズホプキンス大学で学べること。
いつも、自分と同様の環境にある医師の存在は気になりますし、励みになります。	
近未来の医療と介護（骨太方針の医療DX）	医療ビッグデータの基盤構築は現在最も必要な施策だと思います。
	日本にとって大事だから。
	今の若い先生の考え方や状況がよくわかったから。
	大きな視点を持つことができる。
	医療と介護の在り方は、将来の我が国においてとても大きな課題であること。
働きながら「研究」を学ぶ（ジョンズホプキンス大学MPH 日本プログラム KSI）	大変参考になったから。
	現在、臨床研究に興味を持っているため。
	興味がある内容であった。
	自分のあこがれでもある。
	研究を進めていく上で仕事と研究のバランスを整えていく中でとても参考にさせて頂いております。
	同時並行、マルチで人生を生きるの若い方にとって魅力的であって欲しいと感じました。
	ためになった。
	オンラインなのに非常に充実していることを記事と写真(画像)から伝わりました。受講されている先生方が本当に楽しく学ばれてることが羨ましく思えました。
	高知での臨床研究フェローの様子を知ることができた。
京都大学ジャーナルクラブ（Predictive Accuracy of a Perioperative Laboratory Test-Based Prediction Model for Moderate to Severe Acute Kidney Injury After Cardiac Surgery.）	勉強になったからです。
	日本で発表するような小さな臨床研究にも通じる考え方で、参考になった。
	わかりやすかった。
	内容がためになった。
臨床研究の道標（城下彰宏先生／肺炎像を伴う慢性閉塞性肺疾患増悪に対する全身性ステロイド投与の有効性の検証）	読みやすかった。
	福原先生視点からのコメント。
	研修医指導の参考になった。
	研究内容もちろん、論文投稿に至るまでの流れが可視化されており勉強になりました。

■今後、取り上げてほしいトピックス（自由記載）*抜粋

査読への具体的な返答方法
上手いかなかった臨床研究
研究メンタリング 海外との比較
臨床研究に必要な知識、考え方をご教授頂けると幸甚です。
医療安全や質改善に関わっている先生方の話が聞きたいです。
AIと医療
リアルワールドデータ研究、メンター紹介
市中病院での国際交流など
臨床研究の海外留学について
RCTの取り組み方
臨床、研究、教育へのエフォートの配分やモチベーションの維持について
投稿先の選びかた
医療費はどこからくるのか？ 財源はなにか？
働きながら学ぶ
プライマリ医の姿
働き方改革、タスクシフティング
若人の挑戦と成長等
プライマリ・ケア関連研究の方向性（研究内容・手法などの大きな流れ・変革）
臨床と研究をつなげる活動や、実際の臨床を正しく分析する研究の紹介
リハビリテーション医師
医師の起業、兼業医師として医療の知識を踏まえ医療以外のジャンルで活躍する医師の紹介、など
製薬で働く医師など多様なキャリアを知りたいです。
城下先生が帰国されたときに活躍できるポジションがあることを祈っています（編集長も応援するとおっしゃっていましたが）。すでに留学から帰国して日本で苦勞された方は多いでしょう。臨床疫学分野に限らず、そのような体験、苦勞から前に進むための助言など、ページがあればいかがでしょうか。帰国後のポジションや、活躍できるかどうかは、留学のモチベーションに関係すると思います。
医療のDX

■Primaria ONLINE へのご要望など何でもご意見をお寄せください（自由記載）*抜粋

大学院の紹介などはよくありますが、より突っ込んだ門を叩けるメンター紹介の欄を作って欲しいです！
大変かと思いますが、是非連載継続をお願い致します。
読者層次第と思いますが、やや研究に突っ込んだ内容とかありますと、自分が興味があるが知らないことが書いてある雑誌という位置づけになるかもしれない、と思いました。
これからも動画や音源も利用できる内容に期待します。
斬新かつ洗練された内容。じっくり読み込みたいのですが、その時間もとれないほどに仕事に忙殺される日常です。そんな中、Primaria ONLINE は一服の清涼剤となっています。
多少本誌と方向が異なるかもしれませんが、日本の専門医制度が迷走しているので、実情やあるべき方向など、時々。

Primaria ONLINE 読者アンケートにご協力ください

Primaria ONLINE は、みなさまにとりまして、もっと魅力的で価値の高い情報や交流の場を提供できるように、みなさまのご意見やご要望を積極的に取り入れ、今後の改善に役立てていきたいと存じます。

みなさまのご意見を、ぜひお聞かせください。アンケートは、数分でご回答いただける簡単なものです。

*ご回答者の中から抽選で、編集長 福原俊一 著「あなたも世界の臨床研究者に 京都大学医学研究科 MCR プログラム開講 10 周年記念誌」を贈呈申し上げます。

Primaria ONLINE 編集部

アンケートに回答する ▶